URP Osaka City University
Newsletter
Issue 25, Nov. 2014
大阪市立大学 都市研究プラザ ニューズレター第 25 号 2014 年 11 月

平成 26 年度 国際学術シンポジウム「包摂型創造都市と文化多様性」

2014 International Symposium “Inclusive Creative City and Cultural Diversity”

第 5 回 国際ラウンドテーブル会議「都市の世紀を拓く」

The Fifth International Roundtable “Creating the Century for People Living in Cities”

第 3 回 国際都市創造性学会

The Third Annual Meeting of the Association for Urban Creativity, AUC

2014 年 7 月 22 日（火）～24 日（木）の 3 日間、「包摂型創造都市と文化多様性」と題する国際シンポジウムを大阪国際交流センター、国際花と緑の博覧会記念協会（花博協会）、大阪市立自然史博物館による共催、UNESCO、Elsevier 社、大阪ガス㈱の協賛にて、大阪国際交流センター、共催機関のサイト、理学部付属植物園などで開催した。

これは、大阪国際交流センターとの共同による「国際ラウンドテーブル会議『都市の世紀を拓く』」の第 5 回、プラザが 2 年前にパリで開設した国際学術組織「国際都市創造性学会」の第 3 回を兼ねたものである。

また、都市プラザ主催による大規模国際シンポジウムとしては、4 年前の 2010 年において、文部科学省 G-COE の中間報告および国際ジャーナル *City, Culture and Society*（*CCS*, Elsevier 社）の創刊を記念して開かれた「文化創造性と社会包摂による都市の再興」の続編として位置づけられる。

開催の趣旨としては、都市の創造性を推進するエンジンとして「自然」や「植物（園）」、「自然史博物館」などに焦点を当て、創造性と文化多様性の関係性、「自然」を通じた都市間連携（国際・国内）の担い手（アクター）の高度化、そのための手法やロジックを見出すことに置いた。

記念セッションでの Greffe 教授、近藤氏、Bandarin 教授、Perulli 教授（左から）

統一セッションでは、UNESCO が推進する「世界遺産」や「創造都市ネットワーク」との相互浸透を一つのテーマとして取り上げた。UNESCO は文化や教育、科学技術の領域で世界の研究・教育機関から人材・知識を積極的に受け入れるとともに、世界の教育文化行政に携わるハブ的な役割を果たしてきている。午後の 2 つの統一セッションでは、都市と自然との関わりを文化が持つ創造性と文化が取り持つ都市間連携の具体化として、植物園や自然史博物館、さらには科学コミュニケーションの役割に焦点を当て、2 日目の自由論題、さらには 3 日目のエクスカーションとの一体性を持たすこととした。

記念講演をされる Norrby 氏

Over a three-day period from July 22 through July 24, 2014, an international symposium entitled ‘Inclusive Creative Cities and Cultural Diversity’ was held at the Osaka International Exchange Center and at various sites of co-sponsoring organizations such as the Faculty of Natural Science’s botanical garden. The intent of the event was to focus on ‘nature,’ ‘vegetation (gardens),’ ‘natural history museums,’ etc. as engines in promoting the creativity of cities, the relationship between creativity and cultural diversity, the elevation of actors in the collaboration between cities (both domestically and internationally) through ‘nature,’ and to underline the methods and logic for doing that.

■第５回国際ラウンドテーブル会議「都市の世紀を拓く」の概要
The Fifth International Roundtable “Creating the Century for People Living in Cities”

7 月 22 日　22 July Tuesday, 2014

▼9.15－9.30 開会挨拶　Official Opening

西澤　良記（大阪市立大学学長）　Yoshiki Nishizawa, President of Osaka City Univ.

藏野　芳男（大阪国際交流センター理事長）　Yoshio Kurano, Director, Osaka International House

宮前　保子（国際花と緑の博覧会記念協会専務理事）　Yasuko Miyamae, Executive Director, Commemorative Foundation for the International Garden and Greenery Exposition

山西　良平（大阪市立自然史博物館館長）　Ryohei Yamanishi, Director, Osaka Museum of Natural History

▼ 9.30 － 10.30 記念講演　Keynote Address “Nobel Award and Surprise of Nature”

アーリング・ノルビ（前スウェーデン王立科学アカデミー・パーマネント事務局長・前カロリンスカ研究所教授）　Erling Norrby, Former Permanent Secretary, Swedish Royal Academy of Science

▼10.45－12.50 記念セッション　Creative Cities and World Heritage

近藤　誠一（前文化庁長官）　Seiichi Kondo, Former Commissioner of Cultural Affairs

フランチェスコ・バンダリン（前ユネスコ副事務局長：文化担当）　Francesco Bandarin, Former Assistant Director General of Culture, UNESCO, Professor of IUAV

クサビエ・グレフ（パリ第一大学、ソルボンヌ・教授）　Xavier Greffe, Professor, University of Paris 1, Pantheon-Sorbonne

パオロ・ペルーリ（東ピエモンテ大学・教授）　Paolo Perulli, Professor, University of Eastern Piedmont

▼13:50－14:30 基調講演　Keynote Speech: City and Culture in Yao City

田中　誠太（八尾市長）　Seita Tanaka, Mayor of Yao City

▼14.30－15.50 統一セッション 1「自然と都市：文化創造性と国際都市間連携」

Plenary Session 1　“Nature and City: Cultural Creativity and Networking Cities”

座長：岡野　浩（大阪市立大学教授）　Chair: Hiroshi Okano

マーク・ジーンソン（パリ自然史博物館、主任研究員）　Marc Jeanson, Chief, Research Division, Natural History Museum of Paris

飯野　盛利（大阪市立大学理学研究科教授・植物園長）　Moritoshi Iino, Professor and Director, Botanical Garden of Osaka City Univ.

塚腰　実（大阪市立自然史博物館、主任学芸員）　Minoru Tsukagoshi, Chief, Research Division, Osaka Museum of Natural History

藤田　忍（大阪市立大学生活科学研究科教授）　Shinobu Fujita, Professor, Graduate School of Life Science, Osaka City Univ.

柴垣　直子（大阪ガス･近畿圏部･企画開発チーム･係長）　Naoko Shibagaki, Manager of Kinki Area, Osaka Gas Co.

▼16.00－17.30 統一セッション 2「都市と科学：科学コミュニケーション」

Plenary Session 2　“Science and City: Scientific Communication”

座長：足立　泰二（大阪府立大学名誉教授・大阪公立大学共同出版会理事長）　Chair: Taiji Adachi, Emeritus Professor, Osaka Prefecture Univ. and President, Osaka Municipal Univ. Press

フィリップ・テヘーゲン（エルゼビア社・科学ジャーナル統括部長）　Philippe Terheggen, Managing Director STM Journals, Elsevier

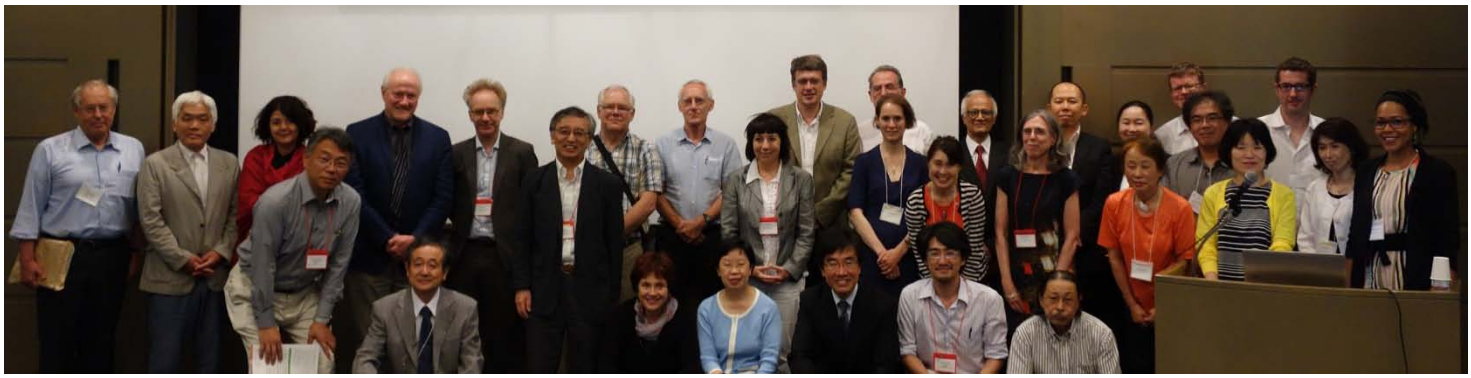
ハンス・トマソン（チューリッヒ大学教授）　Hans Thomsen, Professor, Univ. of Zurich

フランツ・ホフマン（カリフォルニア大学アーバイン校名誉教授）　Franz Hoffmann, Emeritus Professor, Univ. of California, Irvine

松山　壽一（大阪学院大学経営学部・教授）　Juichi Matsuyama, Professor, Osaka Gakuin Univ.

▼17.30－17.40　Closing Remarks

阿部　昌樹（大阪市立大学都市研究プラザ所長・法学研究科教授）　Masaki Abe (Professor, Director of Urban Research Plaza, Osaka City University)



初日の記念講演として、前スウェーデン王立科学アカデミーの永久事務局長の Norrby 氏をお迎えし、ノーベル賞と科学の街としてのストックホルムの発展と、王室との関わり、の歴史に焦点を当てながら、学術都市の文化的側面を示していただいた。*Nobel Prizes and Life Sciences* (2010) (邦訳『ノーベル賞はこうして決まる』創元社, 2011 年)、および *Nobel Prizes and Nature's Surprises* (2013)で明らかにしたデータを用いて、ストックホルムやウプサラなどの都市とアカデミズムとの文化的含意を抽出された。こうした学術の創造性の取り組みは一朝一夕にできるものではなく、長年にわたる多くの人々や自然の恵みによって、達成されること、そしてこの「歴史の重層性」が現在建設中の「ノーベルセンター」に繋がっていることが強調された。

次に、記念セッション「創造都市と世界遺産」として、文化政策に携わってきた 4 人の専門家による報告と討論が行われた。まず、近藤誠一氏からは、いかに日本が文化による国際政治をリードする必要性やそのあり方について、三保の松原を含めた一体的な文化遺産としての富士山を世界遺産として認定に導いたエピソードを交えながら、アーティスト・イン・レジデンスなどの滞在型施設の重要性が説かれた。また、長年にわたりベネチアの保存プロジェクトの指揮官として、さらに世界遺産センター長と創造都市ネットワークの立役者として活躍された Bandarin 教授、EU や日本、様々な国々の文化政策に関する提言をされている Greffe 教授、社会学の国際組織 RC21 のまとめ役など、多くの業績をあげられた Perulli 教授より、都市の創造性と文化多様性、自然と都市との相互浸透などについて提示された。

午後には、八尾市長の田中誠太氏より「八尾の自然と文化の創造性」と題する講演をお願いした。前日にはゲストらを八尾市役所にお招きいただき、江戸時代の私塾である環山楼や築三百年を超え茅葺き屋根を持つ和菓子業の「与兵衛 桃林堂」も訪問でき、八尾の創造性を実感できた。

統一セッション 1「自然と都市：文化の創造性と都市間連携」では、岡野を座長として、都市における「自然」の重要性についての議論がなされた。飯野教授からは大阪市大理学部附属植物園の地域における役割の変化と、大学植物園の役割が重要になってきていることが強調された。塚腰氏が指摘された「メタセコイアの発見で重要な点は、三木博士が世界の誰もが見た事がない種類の植物化石を採集したのではなく、世界の研究者が、セコイアやヌマスギとしていた化石の中に、未知の植物を見出したことにある。メタセコイアの発見は、三木博士の言葉を借りれば、「中学校の植物分類学の基礎で行う事ができた発見」ではあるが、植物の本質を見抜いた深い洞察力に基づいた「世界レベルの」研究であった」点は示唆に富むものであった。藤田教授（生活科学研究科）からは大阪の中心部の豊崎での母屋と長屋との一体的な改修について、大阪ガスの柴垣氏からは NEXT21（実験マンション施設）の役割が語られた。

次に、足立泰二氏を座長として統一セッション 2「都市と科学コミュニケーション」が行われ、科学コミュニケーションの方向性と科学技術研究の新たな役割、都市の商業や産業と芸術家の役割などについて活発な議論がされた。エルゼビア社・自然科学ジャーナル統括部長 Terheggen 氏による「科学と文化：情報発信側からみたグローバルスタンダード」、前カリフォルニア大アーヴィン校教授で長年エルゼビア社から国際ジャーナル JPP の編集長を務めた Hoffmann 教授による「科学と文化：科学者のモチベーションと感性」の両報告では、科学文化形成とコミュニケーションの基本要素である出版事業について、事業者と研究者という異なった立場からの主張が展開された。Thomsen 教授からは、「自然、とくに生物に対する感性＝文化力」と捉え、ナチュラリストであり実業家そして芸術家であった若冲と木村兼葭堂を中心に、複数主体の重要性について考察された。これらは自然の中でのみ存立しうる、都市多文化社会のアイデンティティの主張でもある。松山壽一教授からは、西洋美術と王都ミュンヘンのコレクターでありパトロンであった国王と都市の創造性について披露された。

なお、上記の 2 つのセッションと密接に関連する、セッションG（2 日目に開催）では、UNEP の Chandak 氏、Pune 大学の Saraf 氏、「銀河浴」写真家の佐々木隆氏、信楽の陶芸家・奥田博士氏および奥田美恵子氏から都市のデザインと創造性について述べられ、とりわけ奥田美恵子氏による信楽粘土の即興性パフォーマンスは大きな関心が示された。

懇親会では、八尾の若手・中堅の音楽家によりケルト音楽や沖縄歌謡が披露された。さらに学術都市ウプサラ生まれの民族楽器ニッケルハルパの実演や三線との共演がなされ、都市の創造性についての思いを共有する場を持つことができた。

■岡野 浩（都市研究プラザ副所長・教授・大会実行委員長）

Beginning with a keynote address by Prof. E. Norrby, whose career has included being permanent secretary of the Swedish Royal Academy of Sciences, in the commemorative session there was active discussion and debate on the creativity of cities and the interpenetration of nature and cities by the former Cultural Affairs Agency director Mr. Seiichi Kondo, who has been involved in cultural policy, and Prof. F. Bandarin (former assistant director-general of UNESCO, currently professor at the University of Venice, and since September of this year editor-in-chief of CCS) among others. Having heard that, in two plenary sessions the importance of collaboration between cities through culture and of scientific communication were discussed. During the reception, Celtic music and Okinawan folk songs were performed by the younger and main body of musicians from Yao, and there was a joint performance by *shamisen* and the Swedish folk instrument *nyckelharpa,* which originated in Uppsala.

■第 3 回 国際都市創造性学会の概要
The Third Annual Meeting of the Association for Urban Creativity, AUC

7 月 23 日　23 July Wednesday, 2014

▼9.15－9:30 Opening remarks

Andy Pratt, Professor of City Univ. London, Vice President of AUC

▼9.30－10.30 Keynote Speech

Klaus R. Kunzmann, Emeritus Professor, TU Dortmund Univ.

▼ 11.00 － 12.30 Plenary Session: Creativity and Sustainability

Chair: Prof. Andy Pratt, (City Univ. London)
Lily Kong, Vice President, National Univ. of Singapore
Marisol Garcia, Professor, Univ. of Barcelona
Sharon Zukin, Professor of City University of New York

▼14.00－15.30 Parallel Paper Session

●Session A: Art and Resilient City

Chair: Luciana Lazzeretti (Univ. of Florence)

1. Luciana Lazzeretti and Francesco Capone (University of Florence), "Resilience and Innovations in City of Art: The case of Chemical innovations after the 1966 Flood in Florence"
2. Atsuko Maeda (Doshisha University), "What a Japanese City Needs to Become a Global Brand through Art: The Synergy of Museum-Local Talent-Community in Kanazawa of Japan"
3. Asami Shikida (Hokkaido University), Tomokazu Utsugi (UNU-IAS), Motoko Hattanda (Hokkaido University), Masayuki Sasaki (Doshisha University), "Creating a New Relationship Between Urban and Rural Areas: A Bio Cultural Approach"

●Session B: City, Culture and Society and Cultural Diversity

Chair: Hiroshi Okano (Osaka City Univ.)
Andy Pratt (City University London)
Francois Colbert (HEC Montreal)
Francesco Bandarin (UNESCO)
Kay McArdle (Elsevier)

●Session C: Culture and Creative Milieu

Chair: Montserrat Pareja-Estaway (University of Barcelona)

1. Montserrat Pareja-Estaway & Marc Pradel Miquel (University of Barcelona), "Creativity Agglomeration in Times of Crisis: the Case of Barcelona"
2. Pedro Costa (University Institute of Lisbon), "Reputation and Symbolic Assets as Drivers for Urban Creativity: Challenging the Innovative Milieu Concept?"
3. Takeo Nakatani, "Accumulation and Reproduction of Cultural Capital for Urban Creativity"

▼15.50－17.20 Parallel Paper Session

●Session D: Current issues in Japanese Cities

Chair: Toshio Mizuuchi, Professor of Osaka City Univ.

1. Yoshihiro Fujitsuka (Osaka City University), "Deregulation and Emerging Gentrification in Japan's Major Cities"
2. Johannes Kiener (Osaka City University), "Socio-spatial Impacts of Nagaya-Revitalization in Osaka City - The Case of the Nakazaki Neighborhood"
3. Naomi Uchida (Saitama University), "Creative System of Urban Design in Kanazawa, JAPAN"

●Session E: Creativity and the City

Chair: Volker Kirchberg

1. Volker Kirchberg (Leuphana University of Lüneburg), "Emotions as Causes and Effects of Creative Urban Artist Areas"
2. Jenny F. Mbaye (University of Cape Town), "Hustling a scholarship for a West African CityLab on Urban Creativity"
3. Geuntae Park (University of Leicester), "Conflicts Surrounding Asia Culture Complex: Who this Project Belongs to, the Central Government or Local Communities?"
4. Kaoru Watanabe (Kumamoto University), "Governance Form and Policy Process in a Creative City"

●Session F: Authenticity and Cultural Diversity

Chair: Shin Nakagawa (Osaka City Univ.)

1. Natsuko Akagawa (The University of Western Australia), "Heritage and Cultural Diversity: Embodiment and Creativity"
2. Koichi Suwa (Osaka City University), "Changes in Social Norms in Japanese Society Illustrated by Two Contemporary Music Performances"

●Session G: Urban Ecology and Creativity for Social & Cultural Design

Chair: Francesco Bandarin

1. Hiroshi Okano (Osaka City Univ.), "Establishing Collegium for Social and Cultural Design in Osaka"
2. Ashok Saraf (Univ. of Pune) and Vasant Gangavane, "Abundance in Continuously Enriched Environment: Basis of Sustainable Smart Urbanization"
3. Surya Prakash Chandak (International Environmental Technoloigy Centre, UNEP), "Waste Management and Its Transfer to Asian Countries"
4. Takashi Sasaki, "Given Lives in the Galaxy"
5. Hiromu Okuda and Mieko Okuda, "Shigaraki Ware and Nature: Urban Creativity of Shigaraki, Shiga"

▼17.50－18.30 Closing Remarks, AUC 2015

Sharon Zukin, Professor of City University of New York
Masayuki Sasaki, Adjunct Professor, Osaka City University

7 月 23 日（水）には大阪国際交流センターにて、第 3 回となる国際都市創造性学会大阪大会（Association for Urban Creativity : AUC, the 3rd conference in Osaka）が開催されました。AUC 学会副会長である Andy Pratt 教授の開会挨拶の後、Klaus R. Kunzmann 名誉教授の基調講演に続き、Sharon Zukin 教授、Lily Kong 教授、Marisol Garcia 教授によるラウンド・テーブルディスカッションが行われ、創造性と持続性（Creativity and Sustainability）をテーマに、様々な意見交換や議論がなされました。

Klaus R. Kunzmann 名誉教授の基調講演

午後からは、分野ごとに 4 会場に分かれ、一般公募による学術論文発表セッションが行われ、各会場で活発な議論がなされました。特に、セッション D「日本における現在の課題（Current issues in Japanese Cities）」では、東アジアオルタナティブ地理学会議（EARCAG: East Asian Regional Conference in Alternative Geography）との共同セッションを開催し、AUC 参加者のみならず、EARCAG 参加者からの活発な質疑等も行われ、非常に有意義な学術発表大会となりました。

閉会挨拶は、大阪市立大学都市研究プラザから佐々木雅幸特任教授により行われ、本年度の成功と来年度 AUC 学会開催への期待が語られました。

セッション D での学術発表会の様子

なお、本年度の AUC 学会大阪大会では、北は北海道大学から南は熊本大学まで、多くの国内参加者のみならず、国外からはイギリス、ドイツ、フランス、イタリア、スペイン、ポルトガル等を始めとしたヨーロッパ諸国、アフリカからは南アフリカ共和国、アジアからは中国、韓国、シンガポール等、北米からはアメリカとカナダという多くの参加者が来阪し、1 日目の国際ラウンドテーブル会議に引き続き、多様な学会発表者及び参加者が各専門性を持った学術的議論の場を持つことが出来たという点で、本学会は大きな成功を収めたと言えます。　■堀 裕典（都市研究プラザ特任講師）

On the second day, the 3rd Conference in Osaka of the Association for Urban Creativity (AUC) was held. Prof. Andy Pratt gave the opening remarks, Professor Emeritus Klaus Kunzmann gave the keynote address, and there was a round table discussion by Prof. Sharon Zukin, Prof. Lily Kong, and Prof. Marisol Garcia. In the Parallel Paper Sessions, presentations of academic papers from open submissions were held, and there was active discussion at each of the venues. At a jointly sponsored session with EARCAG (the East Asian Regional Conference in Alternative Geography), there were lively questions and comments not only from AUC members but also from EARCAG members, and it turned into a very significant session of scholarly reports. There were many participants from a variety of countries and the sessions ended on a successful note.

第 7 回 EARCAG 国際会議―住まう権利―

7 月 23 日（水）から 25 日（金）にかけて、URP と大阪市立大学地理学教室が「7th East Asian Regional Conference in Alternative Geography (EARCAG)~The Right to Inhabit: The East-Asian Challenges」を開催した。初日は、AUC とのジョイントセッションも組み、「住まう権利」のテーマを幅広く、ジェントリフィケーションからソーシャルジャスティスまで捉え、ホームレスや被災地復興などの特定な現在課題も集中的に議論された。東アジアだけではなく、欧米やインドから多くの報告者が参加し、批判的なマインドをもった人々との有意義な学術交流ができた。

ポスト学会としては、テーマの延長で 25 日から 28 日に東北エクスカーションに出て、仙台の仮住宅地、石巻の被災地と福島の原発地域を NPO のガイダンスの下で観察できた。肌で感じるツアーにもなり、参加者全員にとって記憶に残るイベントとして好評であった。

■ヒェラルド・コルナトウスキ（URP 特別研究員）

From 23/7 to 25/7, The URP and OCU Geography Department organized the biannually “7th East Asian Regional Conference in Alternative Geography (EARCAG)~The Right to Inhabit: The East-Asian Challenges”. More than 50 presenters from Asia, Europe and America participated to discuss current social urban challenges from various spatial perspectives. After the conference, a three day excursion was organized to the disaster-affected Tohoku Region, in which more than 20 participants were able to experience the current housing problems and recovery projects.

■エクスカーションの概要

3 日目には、エクスカーションとして、長居（大阪市立自然史博物館）、鶴見緑地（咲くやこの花館）、交野（大阪市立大学理学部附属植物園）の 3 か所を視察した。自然史博物館の塚腰氏および佐久間氏による企画展「都市の自然展」の解説や三木茂教授の業績についての展示、標本館などの見学が行われた。鶴見緑地での「咲くやこの花館・植物園」の見学や鶴見緑地内の国連環境計画（UNEP）の幹部による活動が紹介された。

咲くやこの花館での一コマ

大阪市立大学理学部付属植物園へ移動し、「都市と自然との共生に果たす植物園の役割と地域協働のあり方」と題して、植物園長の飯野盛利教授をコーディネート役としてワークショップが行われた。まず、交野市長・中田仁公氏から、植物園との共催企画や都市と自然に関わる市民活動の報告がなされた。植物園を舞台に、「交野の自然とアートのつながり」と題して、音楽などのパフォーマンスや自作の移動式ピザ釜によるピザの実習、交野の竹を使った 3,000 個のキャンドルによるイルミネーションや空間デザインの演出がなされた。

次に、庵原トシエ・南浦雅子の両氏から、植物園の創設に尽力された庵原教授との思い出、ケニア・ナイロビでのジョモケニヤッタ農工大学設立のプロセスでの生活について、庵原トシエ氏による絵画を通して語っていただいた。都市や地域の創造性は、その都市に住んできたあるいは現在住んでいる人々だけで維持できないであろう。都市を訪れ、関わり、当該都市のことを他の都市に伝えた人々などとともに、何にもまして自然の役割が重要である。交野市民による紙芝居の披露もなされた後、交野の美味しい寿司などが振舞われた。

庵原トシエ・南浦雅子の両氏による報告の様子

On the third day as an excursion there were visits to three sites, Nagai (the Osaka Municipal Museum of Natural History), Tsurumi Ryokuchi (the Sakuya Konohana Kan conservatory), and Katano City (Osaka City University's botanical garden). The creativity of cities and local communities cannot be supported by only the people who have lived there or who live there at present. Along with the people who visit the city, who have connections to it, and the people who have communicated with other cities, the role of nature is important above all.

■イベント・研究会の予定

各詳細は都市研究プラザホームページでご覧ください。

11/8・9　貧困研究会 第 7 回研究大会
・・・サテライトキャンパスひろしま　第 3 ユニット

11/22　西成文化講座：多文化のまち西成を知る
～地域共生の課題～
・・・西成韓国人会館　第 3 ユニット

12/15　名古屋プラザ第 3 回地域拠点づくり座談会：
脱野宿後地域移行生活者のその後を支える
居場所づくり（コミュニティカフェ学習会）
・・・NPO ささしま共生会　第 3 ユニット

■URP 先端都市特別研究員（若手）公募
募集要項（平成 27 年 2 月募集分）は、2015 年 1 月に公表を予定しています。
http://www.ur-plaza.osaka-cu.ac.jp/about/recruit.html
■URP-Newsletter の次号発行は 2015 年 2 月の予定です。

大阪市立大学都市研究プラザ　ニューズレター　第 25 号
編集長（発行責任者）阿部昌樹
副編集長　水内俊雄　岡野 浩　全 泓奎
編集主幹　川井田祥子　野村侑香
http://www.ur-plaza.osaka-cu.ac.jp/staff/

URP
Osaka City University 大阪市立大学 | Urban Research Plaza 都市研究プラザ

「都市研究プラザ」は、都市再生へのチャレンジとして大阪市立大学が 2006 年 4 月に設立した全く新しいタイプの研究教育組織です。「プラザ」という名前が示すように、都市をテーマとする人々が出会い、集まる広場をめざしています。先端的都市研究拠点として、現場や海外での研究・まちづくり活動、さらに、世界第一線級の研究者や政策家と国際的なネットワークを構築しています。

http://www.ur-plaza.osaka-cu.ac.jp/

〒558-8585 大阪市住吉区杉本 3-3-138　tel.06-6605-2071
e-mail：office@ur-plaza.osaka-cu.ac.jp
所長　阿部昌樹　副所長　水内俊雄　岡野 浩　宮崎良三
ユニット長　1U 阿部昌樹
2U 嘉名光市
3U 水内俊雄
4U 岡野　浩